

～ Serving the Community and Supporting the YMCA since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：Building Fellowship (BF)

2023年
11月



2023-24 年度 クラブテーマ「地域と繋がろう・地域に知らせよう」



30th Asia Pacific
Area Convention
@ Hong Kong



第30回アジア太平洋地域大会が11月3日から6日まで香港で開催。(利根川恵子 地域会長、田中博之 大会実行委員長)。ワイズ運動2世紀目の最初となる本地域大会に各地から360人が参集し交流と励まし合いの機会となった。日本から83人。市内ツアーでは他国のメンと出会い、晩餐会で乾杯。文化交流で東日本区が獅子舞いなら、西は相撲。日曜礼拝で共に賛美。AYC参加ユースの発表が充実していた。行事の合間に見た香港市街は超高層ビル群と路上の人混み・屋台のコントラストが印象的だった。(浅羽 記)

今月の聖句

ですから、あなたがたに言います。求めなさい、そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見い出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は手に入れ、探す者は見い出し、たたく者には開かれます。

ルカの福音書 11章9-10節

12月「アドベント」例会 案内

日時：12月9日(土) 午前14時～16時
会場：浦和YMCA 北浦和駅西口 歩4分
プログラム：でも、クリスマスをお祝い



12月 よる談会

・気楽に知り合い、和めるまじめな会

日時：12月18日(月) 午後6時～8時
会場：サイゼリア(浦和駅東口)

・自由に話しましょう。

～ エッセイズ ～

◆ 国際親善で終わらないワイズ大会へ！

浅羽俊一郎

私だけの大会ハイライト



11 月初めに香港で開催されたアジア太平洋地域 (ASP) 大会に参加した。本大会はワイズ運動 2 世紀目の当地域における最初の大会であり、コロナ禍の収束もあってメンバー、メネット、ユース 360 人が各地から馳せ参じた記念すべきイベントだったが、私にとっては殊に感慨深いものがあった。



その 2 年前からワイズ 100 周年記念プロジェクトとして始まったオンラインの「ASP ソングフェスト」委員会では毎月顔を合わせた委員たちと、3 月の 100 周年記念大会 (台北) にて対面で再会し、一緒に「ASP ソングブック」を披露する喜びを共有出来た。さらに委員たちとはその後も自主的にオンラインで話し合いを続け、それが香港大会のソングフェスト・タイムに結実したからだ。クラブを超えた自主グループによる提案が形になったということで、今後のオンライン活動の先例の一つと言えよう。

大会初日には 20 分のソングフェスト・タイムで出席者全員がワイズのオリジナルソングを 3 曲歌った。翌日カルチャーナイトでは東日本区グループは中国民謡「ジャスミンの花」を原語と英語で頑張っ

27. Mo Li Hua (Jasmine Flower)
茉莉花
Chinese folk song

茉莉花
Hō yī duǒ huā, sī de měi xiāng huā. měi yī duǒ huā, sī de měi xiāng huā.
What a beautiful flower, what a beautiful flower.
Pure and graceful, all day long.
Sweetness for all, there, here and there.

た。有名な民謡らしく台湾、香港の仲間がテーブル席から歌に加わってくれた。敢えて海外の歌に挑戦したわけだが、これぞまさに歌で繋がるワイズ運動。ソングブックがツールとして役立った。

もう一つ印象に残ったのがユースによる 8 月のカトマンズにおける地域ユース会議 (AYC) の報告タイムだった。彼らが壇上で順にプログラム内容、感想などを述べ、カザフスタンのユースは伝統楽器を上手に奏で、ユース代表の風間奈月氏 (山梨 YMCA 職員) はしっかり締めめのメッセージを発信した。よく準備されており、実に頼もしく思った。



大会をさらに充実できないか？

一方課題も感じた。今年初めて台北・香港と 2 回の海外イベントに参加し、それなりの出費となった。そして改めてワイズの国際大会の意義について考えさせられた。同じクラブや区のメンと行動を共にし、ツアーでも会食でも他国メンとの限られた会話。同じ目的とサービス精神と陽気さとを備えたメン同士が挨拶以上の関係を結べない。言葉の壁が主な理由だろうが、過去にはテーマ別分団協議 (通訳付き) があったことを思い起こすと、今回のプログラムでは参加者は終始受け身だった。今後このような国際的なイベントに参加するメンが、他国のメンと一体感を感じ、そこにワイズの醍醐味を味わうにはどうしたらいいのか。「費用 vs 効果」とは言わないが、形式的な国際親善 (単に多国籍) に満足せずに具体的な連帯・活動体験が出来てこそ真の国際運動だと思う。ワイズ 2 世紀目は国際交流もグレードアップしたいものだ。喜びを共有し、新たな課題を与えられた香港大会だった。

自然なチームワーク

大会二日目、東日本区のあるメンバーがホテルで倒れて怪我をされた。そばにいたメンバーたちが手際よく手分けして動いた。救急車の手配、病院への付き添い、ご自宅への連絡、リーダーはまめに参加者に経過を報告。先日お宅に電話するとご本人の元気なお声が返ってきた。ワイズ仲間の冷静沈着なチームワークを直に見た。感謝！◆

日本からの参加者：東日本区 52 人、西日本区 31 人

写真説明 [左中]アジア太平洋 Y 同盟総主事ナンブーワン氏と。[左下]「ジャスミンの花」にカタカナ表記を追加。[右上]AYC 報告で壇上の風間氏とユースメンバーズ。

◆「COP26から国連へ」

アリシア・オサリヴァン



私はアイルランド出身の22歳の女性です。現在コーク大学法学部の最終学年です。国連ユース代表（UNYD）の一人としてアイルランドを代

表しています。社会正義は常に私の中心テーマでした。15歳でコークYMCAの会員としてSDGsと気候変動という問題を知りました。さまざまな研修やメディア訓練を通じて、コミュニケーション、デジタル、権利擁護の方法を学びました。2021年に世界YMCA代表団の一員としてCOP26に参加し、YMCA仲間と一緒にグローバル・サウスや先住民出身の若者の参加と支援の増加を訴えました。そもそも国連はその複雑な機構のために若者が排除されることが多く、参加できても適切な訓練がないために困難を覚えます。その上、残念ながら参加ユースは多くが白人の特権的な若者で、有色人種、途



上国の人々、社会的弱者の代表が少ないのです。この格差を改善する必要があり、UNYDは若者が国際舞台で発言できる大切なプログラムなのです。

さて、若者として人類に対する最大の脅威である気候変動にどうやって対処できるのでしょうか？今回私たち一同は9月15日、ニューヨークに集結しました。その週末から翌週にかけてSDGsの高官会議があり、大統領や首相が国連でSDGsの成果を国連で報告するためです。私たちは諸々の会議で住宅供給、精神保健サービス、気候変動緩和など、差し迫った問題について主張し、私は第3委員会にてアイルランドのユースを代表して、グローバル・サウスへの気候対策資金の調達に焦点を当て、より裕福なグローバル・ノースが自らの行動に責任を持つよう訴えました。

会議の中で私が強い影響を受けたのはアフガニスタンにおける女子教育に関する議論でした。少女たちが自らの直面する格差や課題について、顔を覆

ってビデオに向かって語るのを聞いたときです。衝撃的でした。

これからの私の目標は、多くの若者と一緒にアイルランドの若者たちの生活を困難にしている諸々の重要課題について、ロビー活動などアドボカシー運動を推進し、訴えを聞いてもらえない社会的弱者の強い味方として立つことです。❖

本記事はグーグル翻訳を抄・意識したものです。写真も同記事から転載したものです。（文責 浅羽）

YMCAの小窓から

11月3日（祝）に所沢市の航空記念公園にて行われたインターナショナル・チャリティーランに浦和センターのたんぽぽ、クローバーのメンバーが参加した（チームラン1チーム、個人ラン4名）。

チームランでは、たんぽぽグループのメンバーがリーダーと共に走った。第1走は、走るのが得意で、体力もある高校生のメンバーが担ってくれた。余裕の表情で、とても速く走り終えていたので、1周では物足りなかったのではないかと思います。「個人ランにエントリーしなくてよかったの？」と聞いてみると、「僕はみんなとリレーをして走りたいからチームランでいいんだ！」という返答だった。自分の良い成績を残すことよりも、みんなと何かをやりとげることに喜びを感じる事ができる心の豊かさに関心した。もちろん、自分の記録に挑戦したい、という気持ちも大切なことではあるが、みんなと何かをやりとげる喜びや楽しさをYMCAの活動を通して感じてもらったことをうれしく思う。あらためて、今後もそういった気持ちが芽生えるような活動を考えていけるようにしたいと思ったできごとだった。



ワイズメンズクラブのみなさまからのご支援によって、チームエントリーができ、子どもたちはとて有意義な経験をする事ができました。ありがとうございました。❖（浦和Y職員 水上真帆 記）

諸報告

◆11月定例会 メモ

11月14日(火)浦和YMCAにて開催。今年1月から続けている「ジェンダー」学習を7月からはテキストを使って進めた。そして本例会からは持ち回りでメンバーが関心ある視点から発題しよう、ということでまず浅羽が担当。ビジターは深尾香子メン(東京多摩スマイル)がオンラインで、ゲストは9月にご夫婦で参加された山本俊明氏。資料として女性解放論集「青鞥」、有島武郎「惜しみなく愛は奪ふ」と、上野千鶴子氏による江藤淳「成熟と喪失」の解説、と3文章から抜粋。今も日本を縛る男女格差の原因を社会の深層の中を探ろうとしたが…。



上野氏は40年前の解説の中で「惨めな父」を「支配する母」と父といずれ同一化せざるを得ない「不甲斐ない息子」とそばで見ている「不機嫌な娘」と一般家庭を表現していた。その頃まだ

30代、40代だった現ワイズメンは果たして上野氏が描くとおりの「(家庭では)惨めな父」だったのかもしれない。大多数の父親たち同様仕事にかまけて、家庭は帰宅のため、築くためではなかったのかもしれない。そのことが今でも社会や組織を深層で縛っているのだろうか。日本の「ジェンダー」問題は日本のワイズとしても一考に値すると思える。これからも色々な人を巻き込んで楽しく深く話し合っていきたい。(浅羽 記)

出席:(メン)浅羽、伊藤、植松、衣笠、塀和、水無瀬
(ビジター・ゲスト)深尾(ズーム)、山本俊明

◆11月よる談会 メモ

20日(月)浦和駅東口のサイゼリアに集まり、色々と意見交換できた。いつもどおり、今回も特にテーマを設定せずにその時々に関心事を皆で共有した。自由な雰囲気の中での胸襟を開いて話し合う中に潜む生活や活動のヒントが見つかり、着実に何かが変わるのを感じられるのは嬉しい。

今回は上松愛里(えり)さんが初参加。上松メンいたくご機嫌だった。散会后駅に向かう途中で記録写真を撮り忘れていたことを思い出すと、すかさず愛里さんスマホでセルフイ。ワイズも若い頃は素早く機転がきいたことを思い出す。ちょっと先に帰られた宮原氏を写真に収められなかったのが残念。

(浅羽 記)
出席:(メンバー)浅羽、上松、
(ビジター・ゲスト)大輪、宮原、中澤、上松愛里

◆11月 関東東部第2回評議会 メモ



第2回評議会は18日に東京YMCA 東陽町センターで開催された。埼玉クラブからは衣笠メンが会長代理で出席。議事内容は後日報告。



仲間からのお便



◆ 塀和光二郎メン 今月の俳句(俳号 愚道)

① 土手静か冬の夕焼けいただいて

夕焼けは夏の季語ですが、我が家の前の土手から観る冬の夕焼けはありがたく感じます。

② 運動会開始の花火なってるぞ

天気が心配で早起きしているとドンドンと開始の花火がなります。胸が高鳴りましたね。

③ 干からびた酢だちに包丁入れてみる

柚木やカボスのように香りなどに使われますが、気づいてみると干からびていることがおおいのです。

◆ 三浦雄二メン(浅羽が訪問)

三浦メンは仕事の調整や体調を考えて今期休会手続きをとりましたが、会長として一度会いたいと提案していましたが、今月13日に与野駅からさほど遠くないご自宅をお訪ねできました。

使うことのない自社用の鉛筆150本をワイズの活動に提供したいということでしたのでユース活動や国際協力活動に活かしましょう、と預かりました。

また骨董品の蒐集をしていると伺っていましたが、年代物のランプがいくつも部屋にぶら下がっているのがとても印象的でした。(浅羽 記)

◆ 浅羽メン

金子玲子氏主催の「世界に目を向けよう」という青少年対象の実践的な国際理解活動の月例オンライン報告会に今春から時々参加しています。先日漸く彼らと直に会うことが出来ました。平和構築を学びたいと画面上で熱く語っていたH君は大学生だと思っていましたが、頼もしい中3でした。今回彼らとLINEでつながりました。

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
月例会(11/14)	7	5	2
夜談会(11/20)	6	3	3